

福井豪雨

下かしまわると

足羽第一中学校三年高嶋泰斗

平成十六年七月十八日に福井豪雨が発生し

た。十年に一度の大豪雨で未曾有の局地的短

時間豪雨だと聞いた。

祖父の資料調査と祖母からの話を聞いて、

僕が生まれる六年前の出来事を知った。県内

各所で川の越水や破堤が続々と起きていた。

特に自宅近くの足羽川の被害状況に驚いた。

足羽川の水は、空田川を越えて道路と川の境

がなくなり、広い川のように広がっていった。東

郷郵便局前や東郷保育園前を大川の膝上まで

水がたまり、住民の人々はぼうぜんとしてい

た。祖父の調べてくれた資料から、東郷小学

校から見た駅の前にはお祭りで行われるはず

の提灯がたなくさん並んでいた。その年はお祭

りは中止になり、二年間存東体育館と東郷公

民館で開催された。越美北線の鉄橋は五本流

失した。二〇〇五年六月から復旧工事が始ま

り、二〇〇七年六月三十日に完成した。

た二年で鉄橋五本が復旧される方々としてお  
すごいと思つた。祖父は土木の復旧に携つて  
いたので詳しく話を聞くことができた。福井  
の土木会社かとしておすごいことに気づいた。  
いつも当たり前のように道路や橋を通って  
るけどそれはとても当たり前でなないことに  
気づかされた。

なぜ鉄橋が流されたかを知ることも成りました。  
それは、山から流れ出た水や木、土などが押  
し流されて道路や川に一瞬で到達した。その

土木が鉄橋の支えにひたかり、さらにガク  
や土が溜まってかんじょうな鉄橋が五本も流  
れてしまった。山からの土砂がいろいろな  
を破壊し、公共交通機関や人々の大切な家や  
暮らしを一時に壊して、うれなうていつた。  
山がりの土砂災害を防ぐために山の手入れ  
がとても大切だと知った。干ばつを繰り返り、  
根の強い木々を植林したり山を交えることが  
大切だと思つた。

身近な昆沙門橋がりの風景は、流木や土砂

と車、ごみ収集車をどが半年ほどそのまゝ放置されていた。東郷での被害は、床下浸水やお寺の崩壊、堂田川のユイが流されるなど被害は大きかった。

一乗地区や美山地区では、住宅の崩壊やインス、冷蔵庫、仏壇などが目の前で流れていることを見ていることしかできなかった。僕の不幸なバレーボールやバレーボールユニズ、ユニホ、文具、携帯などが流されるかと思うと悲しくなりました。当時の若人達はとけうにくれ、どうやって気持ちを立て直したのだろう。僕なりにしても、いかに手をにつかなくとも思った。命が助かっても気持ちにはあいつかたと思った。祖父の資料の中に時々行く美山中学校の写真があった。くさ人あつた。一階部分は水浸して練習もできないう状況だった。今はきれいになった。練習が出来る環境が戻って来たのかとてもういしかつた。中学校の水浸しになつて来たから井戸などには避難していたのが気がたつた。

祖父母は、足羽川の堤防が決壊した近くの  
親戚の家へ泥上げのボランティアをしてきた。地  
元では、一乗公民館へのボランティアや、教員  
かよったそうです。全国からもボランティア  
の人がたくさん来てくれた。

国からは自衛隊災害派遣撤去要請で福井市  
東体育館に滞在して、美山地区と一乗地区を  
中バに土砂や流木を撤去してくれました。大きな  
装甲車や油圧ショベル、クレーンなどが活  
躍していました。自衛隊の人は遠くから日本

各地で活躍している。とりわけ石川県の能登  
でも自衛隊が今も活躍している。  
今福井県では足羽川ダム建設中で早くにで  
きる足羽川流域の被害は最小減にしたい  
たかもしれない。身近なところで防災は、  
森林整備とダム建設しかありません。中学校  
生でもできることをこれからと探してい  
きたいと思つた。僕の家には新ストリートが  
あり、父と祖父が干ばつ株をよくもらい、山の  
干ばつの仕事を手伝っているので一度見に行

